

ストックの作期拡大に関する研究

第1報 雨よけ栽培の安全作期について

柴田 浩・水越 洋三・畠山 順三
(秋田県農業試験場)Studies on the Expansion of Cropping Season of Stock (*Mathiola incana* R・Br)

1. Safety cropping season of stock culture under covering against rain by vinyl film

Hiroshi SHIBATA, Yozo MIZUKOSHI and Junzo HATAKEYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 ま え が き

本県におけるストック栽培は、ほとんどが施設で行われ、極早生品種を用いて7月中旬～8月上旬に播種し、10～11月に採花する作型と、1月下旬～2月上旬に播種し、5月中に採花する二つの作型が行われている。

最近、消費者の嗜好が洋花傾向になったこともあり、生産は急激に増大し、昭和50年と58年を比較すると栽培面積で約4倍の伸びを示し、今後ますます拡大するものと予想される。また、花の消費傾向として周年指向が強まっており、ストックも例外でなく、もっと幅広く出荷できる作型の開発が望まれている。

このようなことから、ストックの作期拡大の一環として、露地雨よけ栽培における秋切りストックの安全作期について検討したので、その結果を報告する。

2 試 験 方 法

(1) 供試品種：ホワイトワンダー(極早生)

秋の紅(極早生)

(2) 播 種 期：6月15日、7月5日、7月24日

(3) 栽 培 法：露地…雨よけの有・無

(4) 試験規模：1区2m² 100本

(5) 耕種概要：定植…6月15日播種で7月14日、7月5日播種で8月4日、7月24日播種で9月1日(いずれも本葉4～5枚時)。栽植距離…条間10cm×株間15cm。施肥量…a 当たり成分N：2.5kg, P₂O₅：3.6kg, K₂O：2.2kg。雨よけ施設…パイプハウス利用の屋根被覆。

3 結果及び考察

(1) 採花時期

雨よけ栽培の採花期は(表1)、6月15日播種で両品種とも8月下旬～9月上旬、7月5日播種では、ホワイトワンダーが9月下旬、秋の紅が9月中、下旬、7月24日播種では両品種とも10月下旬～11月上旬であった。

裸地栽培の採花期は(表1)、雨よけ栽培より6～7日程度の遅れとなった。また、7月24日播種では、11月24日

表1 採花期

品種名	項目 雨よけの有無 播種期	採 花 期			採花 期間	到花 口数
		始 期	盛 期	終 期		
ホワイトワンダー	6月15日	有 無	8月27日 9月1日	9月1日 9月8日	12日 17日	78日 85日
	7月5日	有 無	9月22日 9月25日	9月25日 10月1日	9日 13日	82日 88日
	7月24日	有 無	10月29日 —	11月2日 —	8日 —	101日 —
秋の紅	6月15日	有 無	8月29日 9月1日	9月1日 9月8日	10日 17日	78日 85日
	7月5日	有 無	9月14日 9月22日	9月18日 9月22日	8日 16日	75日 82日
	7月24日	有 無	10月27日 —	10月29日 —	11月2日 —	97日 —

の降雪で開花不可能と判断し、試験を打ち切った。その時の草丈は、両品種とも15cm程度であった。

(2) 採花期間

採花期間(収穫始期から終期までの期間)は、裸地栽培に比べて雨よけ栽培で4～8日短く、また、播種期が遅れるほど2～3日程度採花期間が短く、生育、開花の揃いが良好であった。

(3) 奇形花個体発生状況

奇形花個体率をみると(図1)、両品種とも裸地栽培に比べて雨よけ栽培で少なく、また、播種期が遅れるほど更に

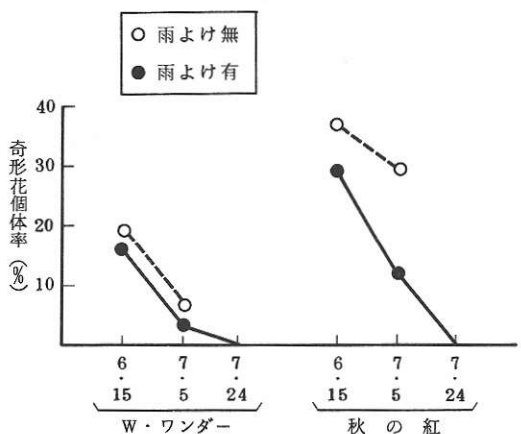


図1 奇形花個体発生状況

少なくなった。特に7月24日播種の雨よけ栽培では、奇形個体は全くみられなかった。

奇形花個体の発生度合は、品種間差がみられるが、7月に入ってから播種では、両品種とも奇形花個体の発生が急減した。

(4) 収穫物

切花長・花穂長は(図2),両品種とも裸地栽培に比べて雨よけ栽培ですぐれていた。

切花長は、播種期が遅れるほど大きくなり、逆に花穂長は小さくなる傾向がみられた。

雨よけ栽培での切花長は、6月15日播種で49cm程度、7月5日播種で約55cm、7月24日播種では約60cmで、裸地栽培では、これらより2~10cm程度短くなった。

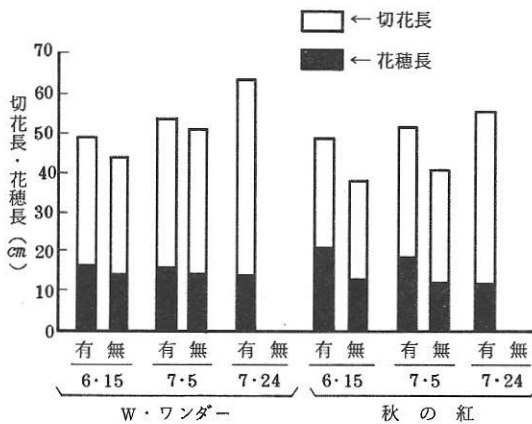


図2 切花長と花穂長

茎径は(図3),両品種とも播種期が遅れるほど、また、雨よけ栽培より裸地栽培で大きくなった。

葉数は(図4),両品種とも6月15日播種では、雨よけ栽培より裸地栽培で若干多く、7月5日播種では、雨よけの有無による差はほとんどなかった。裸地栽培では、播種期のちがいにによる差はなく、ホワイトワンダーで45~46枚、秋の紅で41~42枚であった。雨よけ栽培のホワイトワンダーでは、7月5日播種が50枚程度と多く、6月15日と7月24日播種では、これより8~10枚程度少なかった。

秋の紅では、播種期による差は小さいが、7月5日播種でやや多くなる傾向がみられた。

全体的に裸地栽培では雨よけ栽培より、茎は太く、葉数も多く、節間のつまったズングリ型の草姿となった。

葉の大きさは、裸地栽培のものが雨よけ栽培のものより極端に小さくなった。また、播種期が遅れるほど大きくなる傾向がみられた。

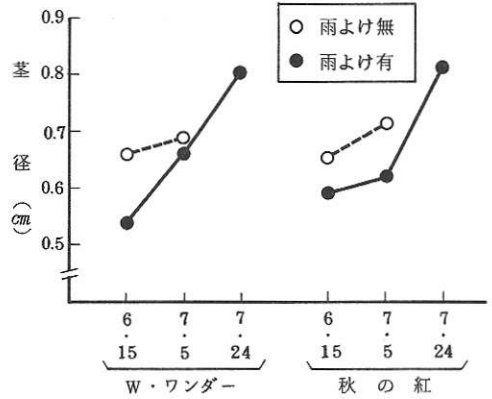


図3 茎径

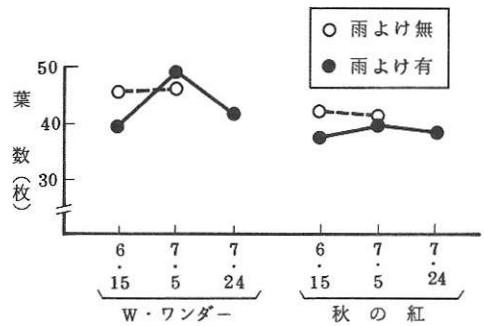


図4 葉数

4 要 約

以上のことから、ストックの露地栽培での雨よけの効果は高いことが明らかとなった。しかし、6月播種では、切花長が50cm以下と比較的短く、また、品種により多少差はあるものの、奇形花の発生が20~30%と多く商品化率が劣った。7月下旬以降の播種では、採花が11月となり、気温の低下にともない花穂が伸びなくなるため、サイドビニールを被覆するなどの保温が必要と考えられる。

このようなことから、実用的な露地雨よけ栽培による採花期は9月中旬~10月下旬であると考えられ、その播種期は、7月上旬~下旬にあると思われる。しかし、この作期でも切花長が50~60cm程度とまだ短く、品質的にもやや劣ることから、雨よけ栽培における品質向上のための好適環境条件、あるいは品種について、更に検討する必要がある。また、雨よけ施設については、パイプハウスを利用してもよいが、ストックの草丈が比較的低いことや、雨よけ期間が50~60日程度と短いことから、トンネル式の簡単な構造のものでも充分切花できるものと考えられる。